黒澤止幾生家

東茨城郡城里町錫高野２２２４

城里町役場から西北西へ約５キロメートル，県道246号線より北へ50mほど入ったところに，ブルーシートに覆われた旧家があります。ここが女性教師のさきがけであった黒澤止幾の生家です。

黒澤止幾は，文化３年（1806）に茨城郡高野村（現・城里町錫高野）に生まれました。家は修験道場「宝寿院」を営むかたわら寺子屋も開いていました。止幾は幼い頃に父と離別し，祖父や養父から漢学や国学を学んで育ちました。26歳で夫と死別すると実家に戻り，櫛や簪の行商で生計を立てていましたが，豊かな知識と才能を見込まれ各地で子どもたちに読み書きを教えました。安政元年（1854）には養父の寺子屋を受け継ぎました。安政５年（1858），いわゆる「安政の大獄」に関連して，前の水戸藩主であった徳川斉昭が謹慎の処罰を受けると，これに義憤を感じた止幾は，斉昭の罪を晴らそうと単身京都に向かい長歌を朝廷に献上しようとしました。止幾は幕府に捕らえられ，常陸国への立ち入りを禁じられてしまいました。しかし，止幾は密かに錫高野に戻り寺子屋を再開しました。明治５年（1872）に学制が発布されると，翌年には自宅を錫高野小学校として開放し，68歳で小学校教師となり，85歳で亡くなるまで郷里の子どもたちの教育に力を尽くしました。

生家の構造は茅葺の曲屋寄棟造で，延床面積は約108㎡。生家内は畳敷きの部屋がある東西棟と土間のある南北棟に分かれています。痛みが激しく，茅葺屋根の一部が崩れるなどしたため，現在はブルーシートが掛けられています。城里町では修復・整備する計画を立てていますが，老朽化が進むいっぽうで，この生家は文化財保護の難しさを物語っているものなのではないでしょうか。

茨城教育　第八六四号
令和二年十月二十日発行
編集責任者　樋口浩史
発行人　樋口浩史
発行所　一般社団法人　茨城県教育会
水戸市見和一―三五六―一
電話　〇二九―二二一―二七四七
印刷所　有限会社山田軽印刷所